

平成27年2月議会
第4委員会報告資料

九州大学箱崎キャンパス
跡地利用計画について

平成27年2月20日

住 宅 都 市 局

九州大学箱崎キャンパス跡地利用計画について

1. 目的

「九州大学箱崎キャンパス跡地利用計画」は、平成25年2月に提言された「九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン」に基づき、箱崎キャンパス跡地の計画的なまちづくりと円滑な跡地処分を進めるため、都市基盤整備・土地利用の計画、及び実現に向けた方針などを示すことを目的としている。

2. 策定主体

福岡市、九州大学

3. 策定までの経緯

平成25年 2月 跡地利用将来ビジョンの提言
平成25年 7月 箱崎キャンパス跡地利用協議会設置
※平成27年1月までに5回協議会を開催
平成26年10月 民間提案募集実施（九州大学）

※民間提案募集について

- ・民間需要の動向を把握することや、開発事業者の公募条件等の参考とするため、「民間提案募集」を実施。
- ・対話事業者として14社を選定し、現在対話を行っている。
- ・今回の提案募集により、土地取得や開発を行う事業者が決定するものではない。

4. 跡地利用計画の構成

- I はじめに
(目的、九州大学統合移転事業の概要)
- II 計画対象
(対象区域、まちづくりの目標年次)
- III まちづくりの考え方
(まちづくりの方針、将来構想)
- IV 都市基盤整備に関する方針
(幹線道路、歩行者・自転車ネットワークの形成方針、公共交通利便性の向上方針、緑のネットワークの形成方針)
- V 土地利用の方針
(ゾーンの考え方)
- VI 実現に向けた方針
(跡地利用の進め方、まちづくり誘導手法、全体スケジュール)

5. まちづくりの目標年次

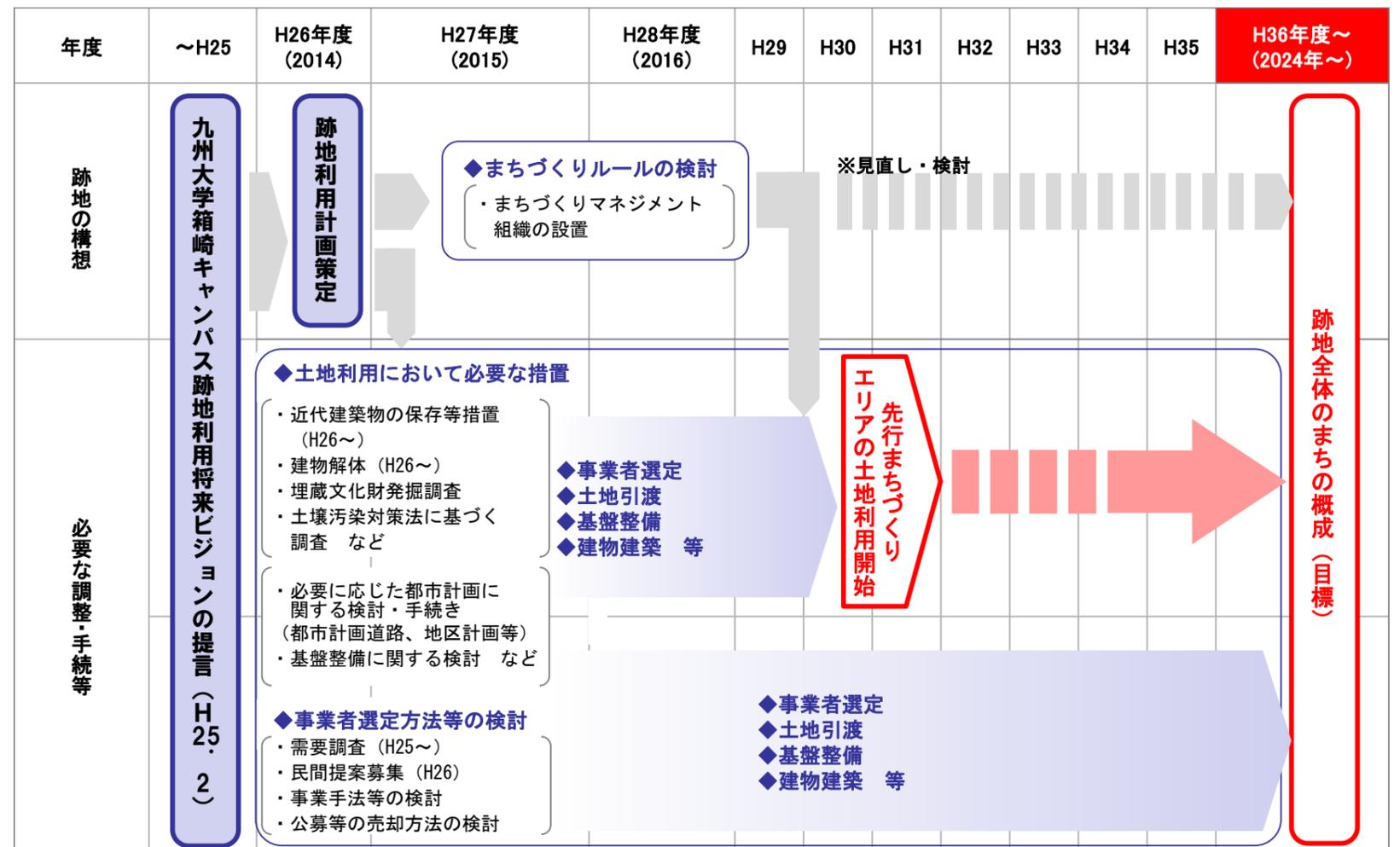


先行まちづくりエリアは平成30年度頃から順次土地利用を開始し、まち全体の概成は平成36年度を目標とする。

＜先行まちづくりエリア＞

- ・工学系地区で移転が完了したエリア
- ・建物解体等の措置が不要な文系地区のグラウンドエリア

6. 全体スケジュール

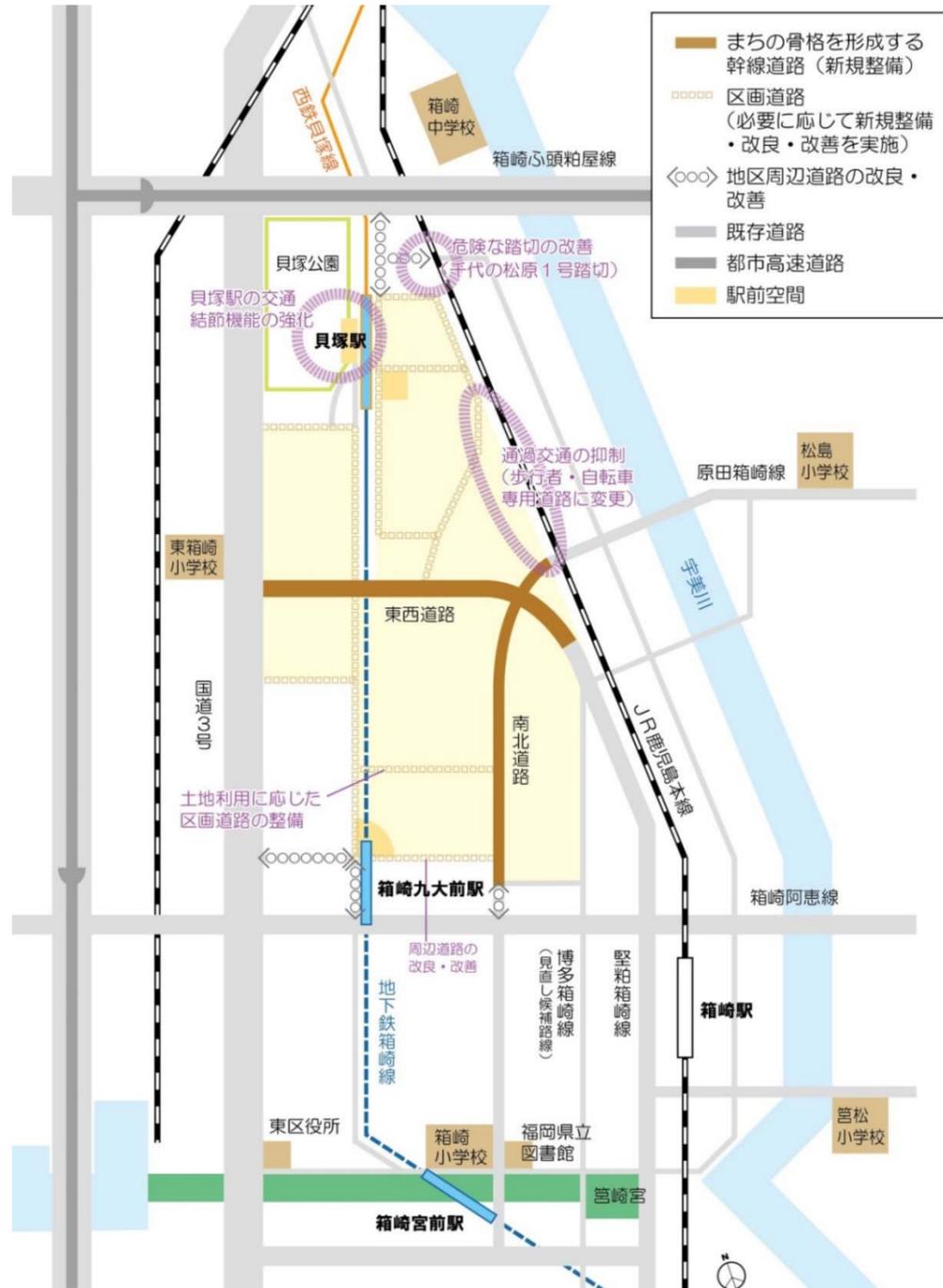


【参考】九州大学箱崎キャンパス跡地利用計画（抜粋）

〈IV 都市基盤整備に関する方針〉

◆地区内道路（街区）の形成方針

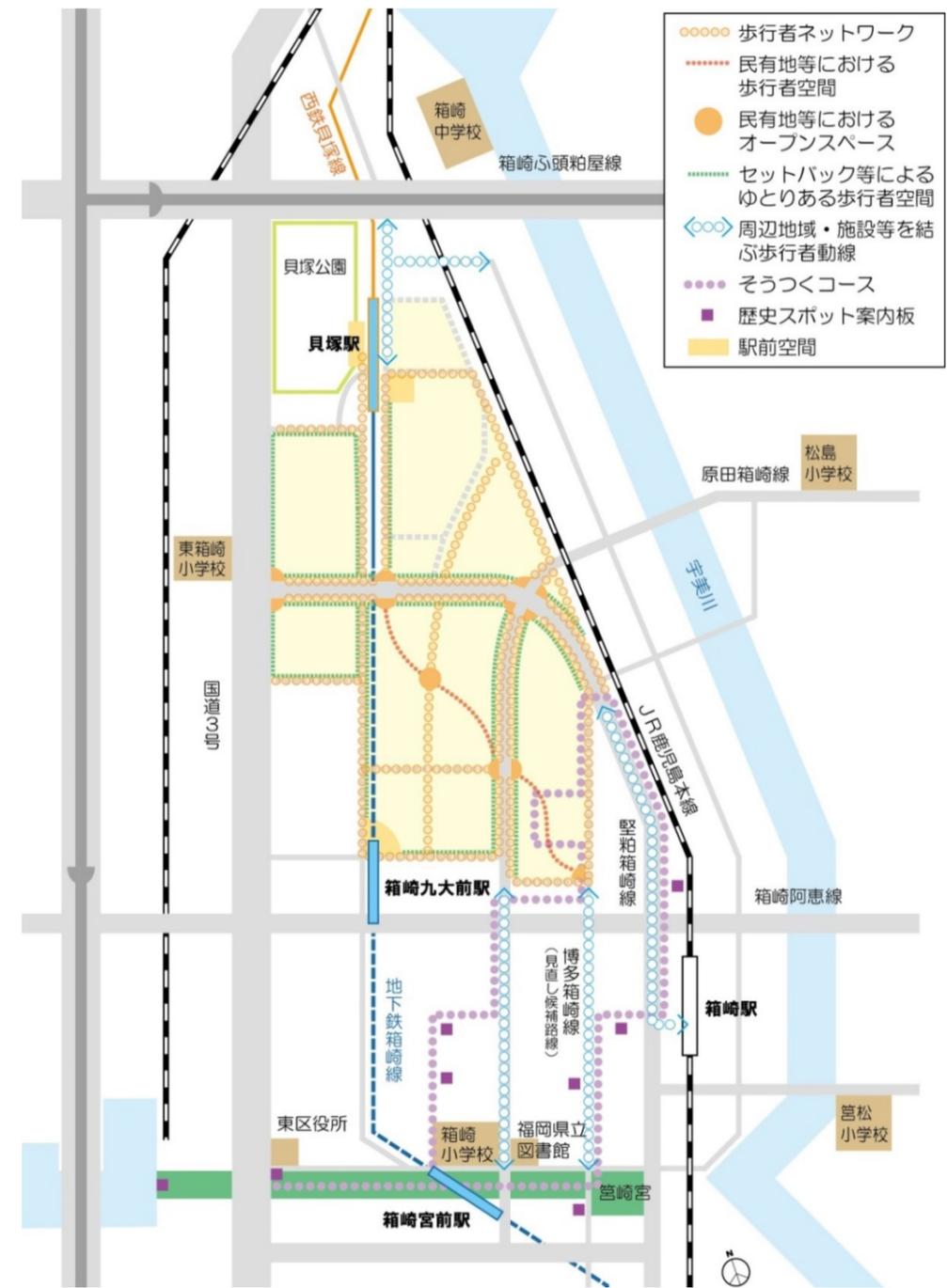
まちの骨格を形成するとともに、箱崎キャンパス地区の土地利用に応じた市街地形成を誘導し、周辺市街地の安全性・利便性向上にも寄与する道路ネットワークの形成を進める。



※「区画道路」等の位置は決定されたものではなく、今後の土地利用計画とあわせて検討していきます。

◆歩行者ネットワークの形成方針

歩道、公園、セットバック空間、民有地等における歩行者空間（フットパス）などを有機的につなぎ、歩行者動線の連続性を確保することで、回遊性を高め、まちの一体感を創出する歩行者ネットワークの形成を進める。

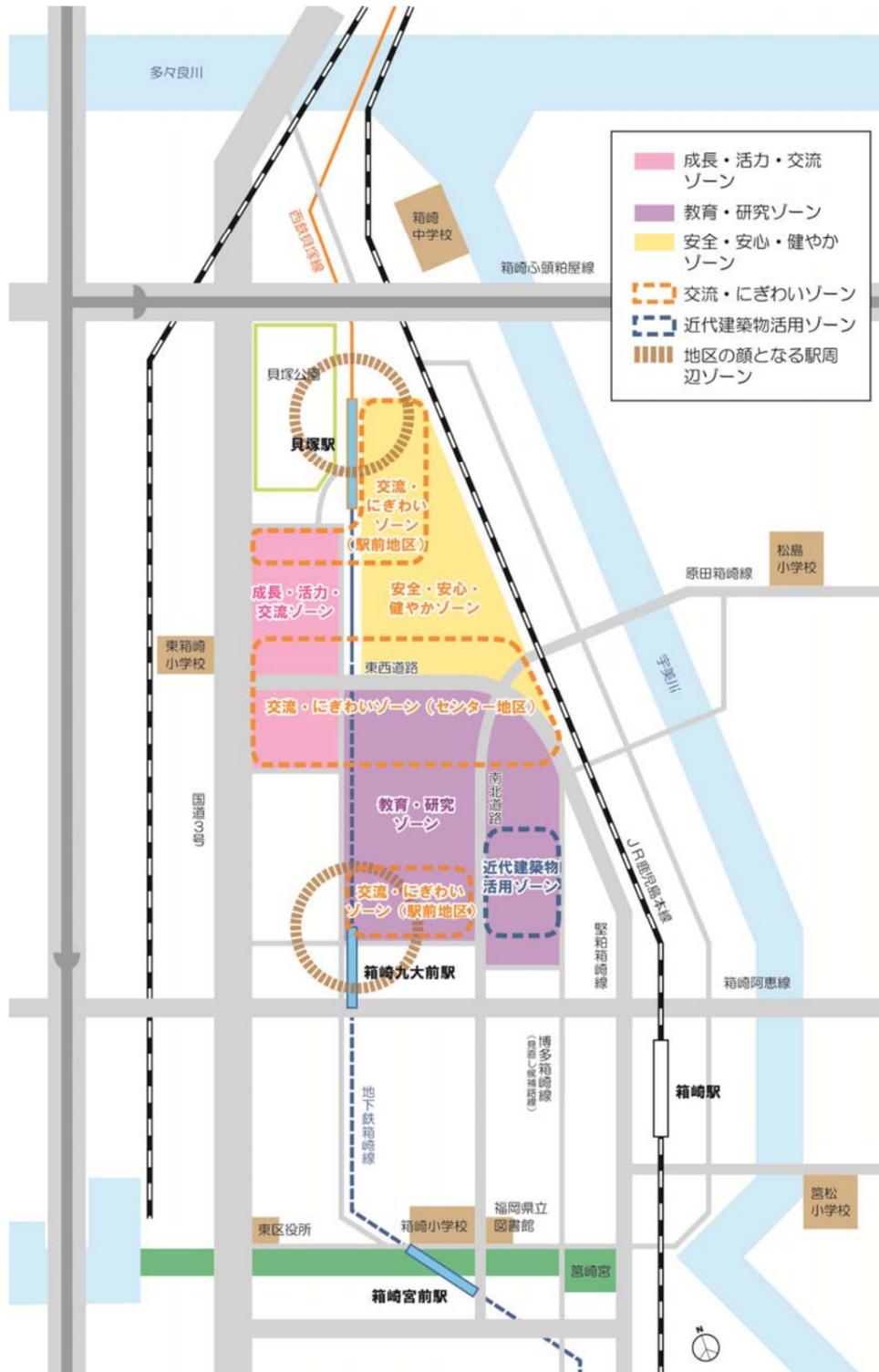


※「民有地等における歩行者空間」等の位置は決定されたものではなく、今後の土地利用計画とあわせて検討していきます。

【参考】九州大学箱崎キャンパス跡地利用計画（抜粋）

〈V 土地利用の方針〉

◆土地利用の方針



※各ゾーンの規模等は決定されたものではなく、今後の需要動向等に応じて検討していきます。

◆ゾーンの考え方

(1) 成長・活力・交流ゾーン

・交通利便性の高さを活かしながら、主に福岡市の持続的な成長に資する、新たな活力・交流を生み出す機能を導入する。

《立地が考えられる主な機能等（例）》

○新産業創造機能、業務商業機能、○スポーツ・健康増進・医療機能、○文化発信機能 など

(2) 教育・研究ゾーン

・「九州大学」が百年存在した地としてのブランドとともに、九州大学の近代建築物等を活かしながら、個性と創造性に富んだ多様な人材を育成するため、教育・研究の環境づくりにつながる機能を導入する。

・接道条件の良い大街区という特性を活かした一体的な土地利用が可能であるため、教育・研究機能と相互補完・連携し、まちの一体感の形成につながる機能については、その導入を検討する。

・住宅が多く立地している既成市街地と隣接しているため、周辺環境に配慮した機能を導入する。

《立地が考えられる主な機能等（例）》

○教育・人材育成機能、○研究・開発機能、○留学生支援機能、○医療・福祉機能（診療所、高齢者福祉施設、子育て支援施設）、居住機能 など

(3) 安全・安心・健やかゾーン

・周辺住宅地への影響、周辺住宅地からの施設利用などを考慮しながら、主に安全・安心・快適で健やかに暮らす環境づくりにつながる機能を導入する。

《立地が考えられる主な機能等（例）》

○医療・福祉機能、健康増進機能 ○防災機能 ○生活支援機能、居住機能 ○創業支援機能 など

(4) 交流・にぎわいゾーン

〈センター地区〉

・各ゾーンの機能を相互に補完する土地利用や、広場等の交流の場など、ゾーン間の交流を促し、箱崎キャンパス地区の一体感を生み出す機能を導入する。

〈駅前地区〉

・様々な人が利用する公益的な機能や箱崎キャンパス地区の魅力向上、生活利便性向上につながる機能、にぎわい・交流を創出するような機能等、駅前にふさわしい機能を導入する。

(5) 地区の顔となる駅周辺ゾーン

・箱崎キャンパス地区および周辺地域の魅力を高め、多くの人が集い交流できる機能や、駅利用者の利便性を高める機能の導入を検討する。

《立地が考えられる主な機能等（例）》

○まちの顔となる機能（ゲート広場、モニュメント等）、○にぎわい・交流機能（店舗、飲食店等）、○交通利便性を高める機能（駅前広場等） など

(6) 近代建築物活用ゾーン

・九州大学が有する歴史文化資源を大切に、貴重な地区資産として活かすために、工学部本館、本部第一庁舎、正門門衛所、正門については、建物を保存・活用することを前提とし、近代建築物にふさわしい機能を導入する。

《立地が考えられる主な機能等（例）》

○教育・人材育成機能、○研究・開発機能、○コンベンション機能、○文化発信機能 など